

## 2021年5月23日 説教「聖霊のご支配」

使徒の働き 2章 37~42節

今朝はペンテコステ（聖霊降臨日）です。それを覚えて、使徒の働き 2章から学んでいきます。

### 1. 聖霊降臨とペテロの説教（37~38節）

①心を刺され（37）「人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、『兄弟たち。私たちはどうしたら良いのでしょうか』と言った。」イエス・キリストが昇天された後の五旬節。祈りの中にあつた信者たちの真中に、聖霊は降臨しました。天からの響きが起きたのです。炎のような分かれた舌が現れて、彼らの上にとどまったのです。彼らは聖霊にみたされ、他国の言葉で話し始めました。ユダヤ人たちはその状況を見て、驚きあきれました。そして、甘いぶどう酒に酔っているのだとあざける者もいました。そこで、ペテロは11人の使徒たちと共に立ち、語り出しました。彼は、この出来事がヨエル書2章の成就であることを伝えた上で、キリストを十字架につけて殺したのは、一人一人であることを直言します。そして、キリストが復活したことも詩篇に預言された通りであったこと、使徒たちはその証人であることを伝えます。この福音説教は、当時の背景を知る人々には、心痛く思われました。聞いた人々は心刺されました。自分に語られていると思われ、使徒たちに「私たちはどうしたら良いのでしょうか」と尋ねたのです。

②悔い改めよ（38）「そこでペテロは彼らに答えた。『悔い改めなさい。』するとペテロは答えます。「悔い改めなさい。悔い改めるといふ言葉は、単に後悔することではありません。キリストを十字架につけてしまったのは、自分自身なのだ。自らの罪により、キリストは十字架につけられたのだと認めることなのです。そして、「悔い改めるといふことの意味は、姿勢を百八十度変えるということです。それは今の時代であっても同じです。ペテロが語ったメッセージは今日でも有効なのです。」

③聖霊を受ける（38）「そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」悔い改めを通してこそ、罪の赦しが与えられるのです。そして、悔い改めの証しとして、イエス・キリストの御名によってバプテスマを受けなさいと伝えられました。バプテスマとは聖霊の注ぎの証としての洗礼のことです。「あなたがたはバプテスマによってキリストとともに葬られ、よみがえらされるのです。」（コロサイ 2:12）とありますが、バプテスマによってキリストを十字架につけてしまったものが、キリストとともに十字架の上に死ぬのです。そして、キリストとともによみがえるのです。バプテスマを受けた者には、賜物として聖霊が注がれるのです。



## 2. 曲がった時代から救われなさい (39~40 節)

- ①お召しになる人々 (39)「**なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。**」賜物としての聖霊が与えられるという約束は、主の恵みによって、キリストに召し出された人々に与えられるのです。それは、その家族や遠くにいる人々でも、キリストにある者たちには与えられていくのです。時代を経た私たちにも約束されているのです。
- ②多くのあかし (40)「**ペテロは、このほかにも多くのことばをもって、あかしをし、**」ペテロの説教は使徒 2 章に詳しく記されていますが、実を言うと、さらに多くの言葉や様々な実際の話を加えて語られたというのです。それは福音書において、キリストがなさったみ業や、十字架周辺のことでもあったことでしょう。
- ③ペテロの勧め (40)「**『この曲がった時代から救われなさい。』と言って彼らに勧めた。**」ペテロは説教後に勧めました。「この曲がった時代から救われなさい」と。曲がった時代とは、創造主なる神から目を離し、人間中心となり偶像礼拝などがはびこる不信仰の時代です。罪に支配され、人間関係にも争い、憎しみ、欺き、偽り、殺人、姦淫などが横行するのです。そのような中に生きる者たちに、神に立ち返っていくようにと勧められるのです。

## 3. 教会の出現 (41~42 節)

- ①バプテスマ (41)「**そこで、彼のことばを受け入れた者はバプテスマを受けた。**」ペテロによる説教後の促しに対して、そこにいなかったとしても、自分もキリストを十字架につけた罪人であることを認めた人々がいました。キリストが罪人の身代わりとなって死んでくださったこと、葬られた後によみがえられたことを、彼らは信じたのです。そして、決心をして、バプテスマを受けていったのです。
- ②三千人ほどが (41)「**その日、三千人ほどが弟子に加えられた。**」その日に、弟子に加えられた者は三千人ほどに及んだとあります。弟子とは、キリストを信じ、悔い改めて、バプテスマを受けた者ということです。大変な人数ですが、エルサレム教会となる人々が一気に生まれていったということです。それほどに、熱気を帯びていたということでしょう。
- ③交わり、祈り (42)「**そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。**」そのようにして、導かれてきた人たちには、いつのまにか教育もなされていったのです。クリスチャンとして生きるありかたや、主の御言葉を示されて守り、主にある兄弟との交わり、聖餐式ともいえる時、そして祈り会が持たれ、主を見上げて一つとなっていたのです。

《結論》

ペンテコステというのはギリシャ語。五旬節と訳されます。大麦の初穂の束を奉献する日から五十日目。七週の祭りとも言われます。ユダヤ三大祭り（他は過越の祭、仮庵の祭）の一つです。そのペンテコステの日に、聖霊降臨があったので、聖霊降臨日のことがペンテコステと呼ばれるのです。なお、教会歴では復活節の日から数えて 50 日目がペンテコステになります。今年

は 4 月 4 日が復活節で、今日が 50 日目のペンテコステとなっています。

さて、今朝の聖書箇所は聖霊が降臨後、使徒ペテロの説教に感動した人々に、悔い改めてバプテスマ（洗礼）が勧められることに始まります。また、バプテスマを受けることによって、聖霊を受けることが約束されます。すると何と三千人もの人々が信仰に入り、洗礼を受けることとなったのです。まさにリバイバル（大覚醒）です。ここにエルサレム教会が始まることになります。そんなことから、ペンテコステは教会の誕生日でもあるのです。

キリスト教会において、ペンテコステは復活節、降誕節と並んで、三大記念日となっています。そこで、教会ではこうした記念日に洗礼式が行われることが多いのですが、ペンテコステの日に洗礼が授けられることには意味があります。というのも、ペテロの説教の結論は、神から離れて迷っている者が、神に立ち返って、バプテスマ（洗礼）を受けることが勧められているからです。今朝、私たちの教会においても、洗礼式が行われるのは、そんな意味合いがあります。このような日を迎えられた恵みに心から感謝いたします。

それにいたしましても、この日に三千人もの人々が回心してバプテスマを受けるに至ったのには驚くべきですが、何があったからでしょうか。それは第一に聖霊降臨という圧倒的な出来事に基づく、聖霊のご支配です。そして、第二にペテロを通して福音が語り告げられたことです。キリストの十字架は人間の罪によるものであることを聴衆の一人一人が認めさせられたことによります。使徒 2 章を読む限り、決してわかりやすいことを言っているわけではありません。しかし、聖霊のとりなしで不思議に民の心に響き、悔い改めに導かれました。そして第三には、ここでも 42 節でクリスチャンとなった人たちが、御言葉に学び、主にある交わり、祈りをささげたとあります。ここに秘密があるのです。聖霊降臨前のクリスチャンたちは復活のイエス・キリストが昇天した後に、熱心に祈り合っていました。その DNA（遺伝

子の本体) がエルサレム教会に受け継がれていったのです。エルサレム教会は47節を見ると「主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」とありますが、この教会の基調には祈りと愛の交わりがあったのです。

そんなことから、私たちの教会がこれらのことから学ぶことは何でしょうか。まずは聖霊がご支配くださるようにと願いつつ、聖霊に働いていただきやすいように、私たちの群れが備え、整えられていくことでありましょう。そのために、どんな時にも福音の原点に立つ教会を目指すことです。つまり、キリストの十字架と復活の福音が礎であることを覚え、悔い改めの祈りをささげていきたいのです。人間中心の思想や考えではなく、福音に立つことです。そして、そのためにもクリスチャンが心を合わせて祈り合い、御言葉に導かれつつ進みましょう。ペンテコステの恵みが我々の上にありますように。